

成果報告書

1. 選択テーマ

(3) 学校運営協議会と地域学校協働本部の設置・拡充に向けた調査研究事業

2. 研究課題

○能勢地域保幼小中高をつなぐ一貫教育と地域の教育力を生かしたグローバル人材の育成
～学校運営協議会・地域学校協働本部・保幼小連絡会・能勢の魅力化協議会等の協働による教育魅力化と活性化の取組を通して～

3. 実践研究のねらい

目指す能勢の子ども像（4K）

1. 多様な人と共生できる（共生のK）
2. 誰とでも協働できる（協働のK）
3. 興味を形にできる（興味のK）
4. 郷土を意識できる（郷土のK）

能勢町には1つの町立保育所、1つの私立みどり丘幼稚園（認定こども園）がある。小中学校は、平成28年4月に6小学校2中学校を再編整備して、施設一体型小中学校「能勢ささゆり学園・能勢小学校・能勢中学校」として開校した。町内には保1、幼1、小1、中1、高1となり、能勢ささゆり学園（小学校・中学校）は平成30年4月から学校運営協議会を立ち上げてコミュニティ・スクールとしてスタートした。能勢地域の小中高一貫教育に関しては平成13年度に文部科学省「中高一貫教育の推進実践研究事業」の委託を受け、連携型中高一貫教育を開始。平成16年度から能勢高校は「総合学科」に改編。能勢地域小中高一貫教育をスタートさせる。平成22年度から府内7番目のユネスコスクールに認定。平成24年度の大阪府立学校条例の制定を契機として能勢高校を応援する「町ぐるみ応援団」設立。平成27年度に文部科学省よりスーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）の研究指定（5年間）を受けた。令和2年度より、能勢高校ではなく豊中高校能勢分校（全学年が全て分校生）として再スタートする。学校運営協議会設置2年目を迎える。

昨年、本事業の採択を受け、地域学校協働本部設置に向けての準備を行ってきた。学校支援地域本部から地域学校協働本部への移行、能勢高校で3月3日の卒業式、閉校式が開催され、事実上完全分校化となった。令和元年度、能勢高校最後の年に、能勢の魅力化協議会が、一歩踏み込んだ組織体を作り、能勢の高校を応援する会とタイアップして、未来フォーラムの立ち上げを行ってきた。豊中高校能勢分校で閉鎖された旧食堂を「能勢寺子屋」としての新たな居場所として立ち上げる動きを行ってきた。

また、生涯教育部門では、旧西中学校校区と旧東中学校校区に2つ存在していた地域教育協議会を一本化していくような働きかけを行ってきており、次年度に向けて、地域学校協働本部の立ち上げに向けての準備を行ってきた。

能勢町立小中学校の学校運営協議会、豊中高校能勢分校の学校運営協議会、能勢町立のせ保育所、みどり丘幼稚園、町の首長部局、町教育委員会の今ある協議体をネットワーク化し、有機的なつながりの中で、保幼小中高の育ちを保障する仕組みを実現していく。また、小中学校と豊中高校能勢分校の学校運営協議会やその組織をつなぎ、それぞれの協議体が果たす役割や効果的な運営方法・推進方法について研究することを通じて、能勢の幼児から高校生に至るまで、グローバル人材を育成するシステムを構築する。

本事業は、能勢町で育つ幼児・児童生徒が学校と地域が協働する取組を通じて、保育所、幼稚園及び小中高の設置体の異なる学校運営協議会と新たに立ち上げる予定の地域学校協働本部がうまく機能し、連動させていけるように、上記の目指す能勢の子ども像（4K）に向けて人材育成を進めていくことをねらいとする。

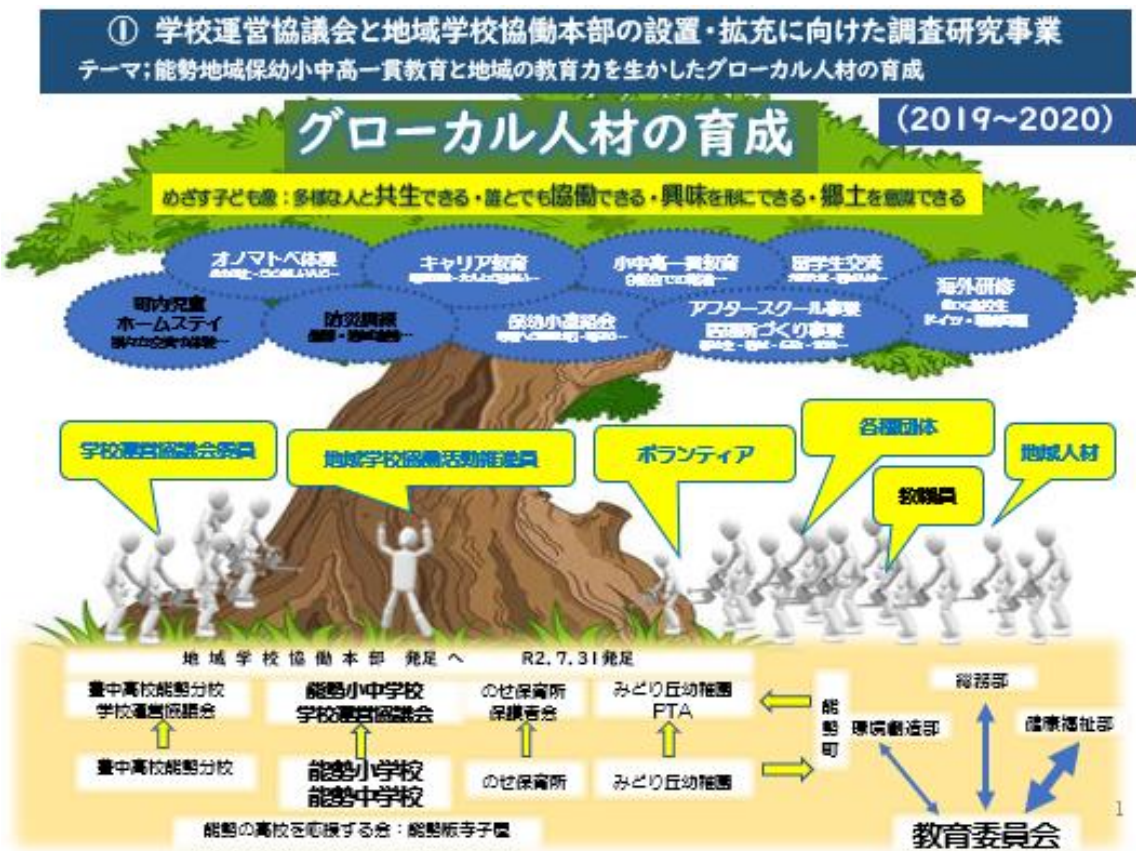
具体的には、

- ① 保幼小中高に通う子どもたち・保護者・教職員及び地域住民が、能勢という町の保育や教育活動に参画する中で、互いに出会い、能勢で子育てする意味や価値等を学び合うこと。
- ② 5つの組織（のせ保育所・みどり丘幼稚園・能勢小学校・能勢中学校・豊中高校能勢分校）が連携・協働し、校種間・異年齢集団で、確かな学び、豊かな心、健やかな体を育む活動を通して、幼児から高校生まで、つなぎを意識した効果的な教育活動の実施を図っていくこと。
- ③ 学校と地域がイコールパートナーの関係になって、子どもの思いを実現できるように、大人た

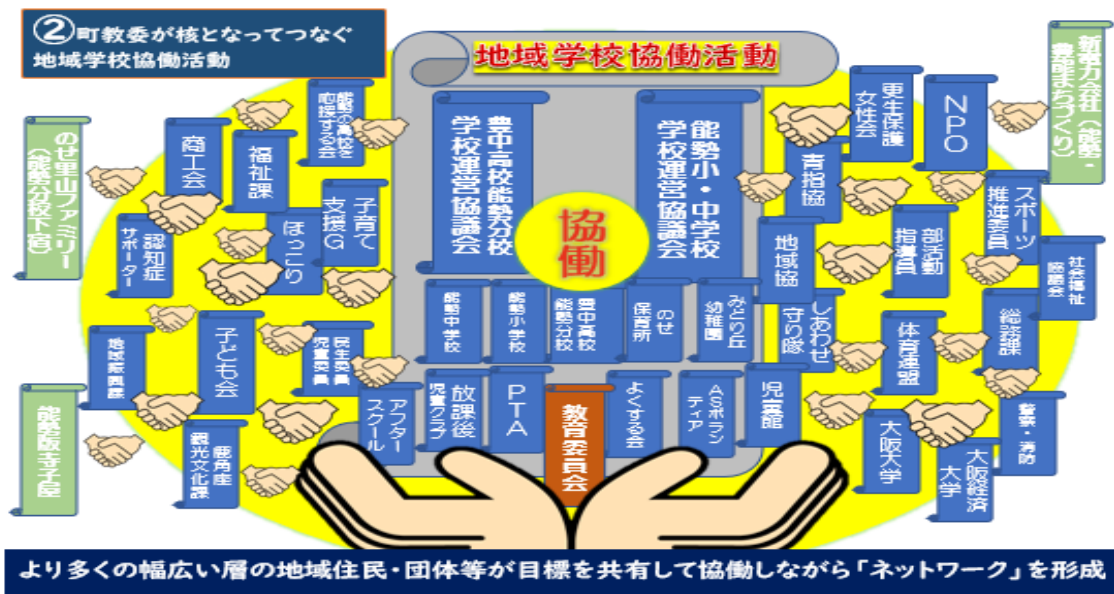
ちがともに協力し、子どもも大人も共に育ち合い、響き合う関係を築き、住みよい能勢のまちづくりの創り手になっていくこと。

4. 事業の実施体

①本事業の全体構想図



②能勢小学校・能勢中学校の学校運営協議会が学校と地域をつなぐ活動を行っていきながら、高校生や幼児とも関わりを広げ、能勢地域保幼小中高の保護者及び地域が協働していくイメージ。学校運営協議会委員を中心に、学校や各種地域組織団体等との協働を図り、その結果、実態を伴った能勢町地域学校協働活動が根づいていくことをイメージしている。令和2年度は、能勢小・中学校学校運営協議会のメンバー構成も変更し、地域学校協働本部設置に向けて、新たなつながり関係づくりにつとめていく。教育委員会が町全体の教育のトータルコーディネートをして様々な教育活動を実現していく。



③能勢町地域学校協働活動本部の設置

能勢町地域学校協働本部を設置

地域と学校が連携、協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるとともに、学力を育むための活動支援を行うことを目的として、本年7月31日に設置されました。
能勢小学校・中学校をはじめ能勢に関わる様々な団体から選出されたメンバーが中心となり、3部会に分かれて活動をしていきます。

こんな活動をしていきます！

- 行事・環境部**
 - ◆学びの丘の開放
 - ◆地域協賛とのコラボイベントの開催
 - ◆ボランティアのつどいの開催
- 学び支援部**
 - ◆授業支援・補助
 - ◆アフタースクール！支援・補助
 - ◆元気ひろば支援・補助
- 生活・広報部**
 - ◆あいさつ運動の実施
 - ◆しあわせ守り隊との連携
 - ◆家庭教育支援事業との連携
 - ◆広報誌の発行

主な所属団体

- ☆小学校・中学校PTA ☆豊中高校能勢分校PTA ☆民生委員・児童委員協議会
- ☆体育連盟 ☆更生保護女性会 ☆商工会青年部 ☆家庭教育支援チーム「ぽっこり」

ボランティア募集

各部会の活動をお手伝いいただける方を募集しています。随時にご質問いただき、活動に参加していただける方がおられましたら下記までご連絡ください。

能勢町地域学校協働本部事務局 ☎734-2693 学校教育課担当まで

5. 実証研究の具体的な実施内容及び実施方法等

- ① 学校運営協議会の構成メンバーを一部変更し、更生保護女性会・民生委員児童委員協議会・体育連盟・商工会青年部からも参画してもらい、これまで学校から要望を受けていた不登校支援、中学校での職場体験などの地域支援活動等と協働できる仕組みづくりを進める。
→組織代表に説明。組織内での共通認識を図っていただく。地域学校協働本部の会合にも参画していただく。行事等のときに団体で参加を促していただき、子どもたちと触れ合う場を創る。
⇒不登校支援への投げかけはできているが実施はできていない。また、職場体験は事業自体が実施されていない。
- ② 能勢小中学校の学校運営協議会において、学校が地域の方々の支援を受けたいこと、学びたいこと、助けてほしくて困っている状況を外部にうまく発信し、外部からの支援ができるような支援体制を広げていく。
→学校の情報が、地域になかなか浸透しない側面がある。コミュニティ・スクールの趣旨、活動内容、構成員、協力要請内容等人を通じて、学校の情報が地域へ伝わる工夫が必要である。広報「のせ」、能勢町ホームページ、学校ホームページ、他の媒体を通じて発信していく。
⇒ほぼ、実施できた。
- ③ 学校運営協議会委員の自主的な動きをサポートし、委員が主体的に行う活動や研修を企画していく。ボランティア同士の交流を深め、名簿の管理を全体で共有し、委員研修をさらに充実させる。
→新型コロナウイルス対策で令和2年2月に計画していた「ボランティア感謝のつどい」「ボランティア交流会」が中止になった。令和2年度は、1学期のうちにボランティア交流会を開催し、ボランティア組織の再登録、ボランティア同士がつながる仕組みづくりと合わせて、研修会を同時開催し、熟議の機会としたい。
⇒以上のことを計画していたが、1学期と3学期に緊急事態宣言が発令されたため開催できなかった。
- ④ 中・高校種間連携がより有意義なものとなるよう、首席を中核に据え、同僚性を生かした学校運営協議会や地域学校協働活動を推進する。どの教員も同じように、コミュニティ・スクールの情報を児童生徒保護者にも現状が理解できるように、教職員への理解が進む工夫をしていく。

→昨年度、小中高の首席が主体性をもって動く場面が多く、組織の連携が進んだ。今年度もうまく小学校・中学校・高校の各校種間連携がスムーズに動けるような工夫や会議の段取りを機能的に行っていきたい。

⇒実施できた。

- ⑤ 小中高一貫教育研究において、9つのテーマ別グループ（健康と運動、食と農業、言語活動、グローバル英語、自主活動、情報とICT、歴史・文化・自然・観光、グローバル能勢、支援）の取組を更に深めていく。同時に、豊中高校能勢分校のGS課題探究基礎講座・重点講座、GS基礎知識講座・重点分野講座の中で、能勢町の行政組織と連携し、能勢町地域連携公開講座を開き、町民と高校生が対話を続ける取組等を通して、高校生のキャリア形成や地域への貢献度を高める活動を支援する。

→昨年のドイツ視察の経験を生かして、国内ドイツ視察高校サミットの開催に向けての取組を進めていく。福岡県みやま市のドイツ視察の高校、福島県NPOが主催する高校生ドイツ視察、豊中高校能勢分校、ドイツブリロン高校、合わせて4校でサミットを計画。再生可能エネルギー等新電力、森林教育をスタートした能勢町で実践交流会を計画中。ポストSGHの実践につなげる。

⇒町の政策推進を担う部署から学校運営協議会及び地域学校協働本部の構成員として参画した。また、町の課題と豊中高校能勢分校の課題をとともに考える連続講座を開催できた。

- ⑥ 標本活用等事業で創設した学校博物館の活用については、日頃の理科、生活科、総合的な学習の授業との接点を更に持つていくために「私の発見コーナー」を活用し、児童生徒の作品や自主学習が掲示できるコルクボードの運用に力を入れていく。また、学校博物館での学びを深めていくために制作者や関係者を招いた体験、課題解決学習の企画も行っていく。

→学校博物館では、能勢の特産物「三白三黒（さんぱくさんぐろ）が実際に手に取って触れることができる仕掛けにもなっていることから、児童生徒が考える能勢の新三白三黒等の掘り起こしも考えていく。能勢の農業、自然、歴史、文化などを価値付けし、能勢を選んで移住してきた人たちの新しい感覚を子どもたちの感性をくすぐる出会いを創出する実践を行っていく。能勢町アジア野菜研究会やFIRMデザイナーなどとの出会いをコーディネートして、グローバル能勢の取組につなげていく。

⇒小学1年生、小学4年生においては、外部講師を招いて学校博物館を利用した出前授業を実施。私の発見コーナー等の利用は継続的に行えた。

児童館活動と能勢の自然をつなぐ活動は、とても充実した活動となった。学校博物館を創り上げたNPOとの連携が強くなり、児童館活動や生涯教育講座へとつなげることができた。

- ⑦ 学校博物館が、学校運営協議会や地域学校協働本部でも活用できるように、学校開放に向けて学校側とも協議し、地域の方々の手で学校博物館も運営できるスキームが作れるように協議を深めていく。（教職員に頼らない学校開放のシステム作りを構築していく。）

→学校開放のルール作り。学校開放するときの予算確保、イベント時のスタッフ要請、各課連携したスタッフ要請、能勢町役場若手チームと教職員若手チームの協働等へ広がっていく。

⇒コロナ禍で地域への学校開放は実施できなかった。

- ⑧ 職場体験学習の受入先は、町内事業所が約80%。地元の企業、公共施設など、能勢町のことを学ぶ機会は多いが、キャリア教育の視点から、職場体験学習に至るまでの自分への振り返り、未来への希望、職業観、適性等について考えられる学習、体験後の中学生の生き方、将来への展望など、職場体験学習を通じた生徒のキャリア形成の充実を更に図っていききたい。

→町内のまだ開拓されていない事業所、カフェ、レストラン、公共施設等への新たな展開を模索する。4日間だけの取組に終わるのではなく、職場体験先についても、もっと生徒自身の生き方にせまられるような関係づくりに努めていく。能勢の素敵な大人ともっと出会い、自分の可能性に気づけるように、地域の暮らしの豊かさや能勢の方々の心情にも触れて、もっともっと能勢町に目を向けてほしい。

⇒新型コロナの影響により職場体験学習で能勢町の事業所に行くことはできなかったが、オンラインを使った職場体験ワークを行うことができた。業者を通じて企業からオンラインでできるキャリア教育を実施できた。

- ⑨ 能勢の寺子屋委員会（仮称）能勢の高校を応援する会を中心に、能勢高校留学生サポート委員会、能勢の魅力化リターンズが、昨年未来フォーラムというイベントを企画。月1回第3金曜日の午後7時30分から活動を継続してきた。この3つの組織を中心に、豊中高校能勢分校の活性化を行っている。1つは、豊中高校能勢分校の短期長期の留学生ホームステイに係る組織母体を作る。また、能勢の魅力化リターンズが月1回行ってきた熟議。月1回の熟議には、能勢の高校を応援する会のメンバー以外にも多くの方が参加し、熟議を重ね、能勢寺子屋の立ち上げを進めてきている。

この会の動きに合わせて、高校生×地域住民、高校生×地方創生、高校生×留学生、高校生×小中学生、高校生×幼児等の取組を計画する。
→能勢寺子屋が能勢町保幼小中高全体を内包するような組織体になれるように、数年後の能勢の教育×まちづくりNPO法人的な組織にしていけるような活動にシフトできるような進めていく。
⇒豊中高校能勢分校の下宿制度を立ち上げることができた。大阪府庁、能勢町総務課、教育委員会が月1回協議する機会を設け、豊中高校能勢分校の今後の在り方について協議しており、分校を存続させる動きについて議論を深めている。

6. 実証研究で得られた成果

① 能勢町地域学校協働本部の設置

7月31日、地域と学校が連携、協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるとともに、学力を育むための活動支援を行うことを目的として、能勢町地域学校協働本部を設置することができた。能勢町地域学校協働本部設置要綱を設置し、3名を推進員に委嘱した。また、構成員として新たに商工会、体育連盟、更生保護女性会、民生委員児童委員協議会から選出。また、町行政から教育委員会部局以外の総務課長、学校からは小中首席をそれぞれ新構成員として選出。地域学校協働本部において3部会に分かれて活動を開始。部会長には、前学校運営協議会委員で活動の中心にあった委員3名が就任。学校運営協議会と地域学校協働本部のパイプ役として活動していただいている。推進員協議会を地域学校協働活動の実施主体者をまとめる組織（親会議）として位置づけ、推進員と部会長6名が地域学校協働本部の実施主体のコーディネーターとして活動していけるような組織にしていく。

（【資料0】能勢町地域学校協働本部設置要綱）

（【資料1】能勢ささゆり学園コミュニティ・スクールだより」（令和3年1月発行）

② 「学び支援部」の活動

授業支援・補助、アフタースクールIの支援・補助は、緊急事態宣言後の臨時休校明けの7月に実施。8・9月はボランティアにアンケートを取り、感染症対策についての協議も進め、10月以降は、調理や合唱などの活動は一部中止しているが、その他の活動は例年どおりの活動を行っている。学校の授業支援については、例年どおりには開催できなかったが、コロナ禍だからこそあえて開催できた地域との関わりも生まれる取組を行うことができた。

（【資料2】令和2年度アフタースクール実績記録）

③ 「生活・広報部」の活動

今年度もこれまでの委員を中心に毎月あいさつ運動を実施してきた。9月より広報「のせ」にあいさつ運動の周知のため事前告知を毎月継続している。10月からは協力者へ「あいさつ運動実施中」ののぼりを配布。能勢小中学校の学校だよりにも記事掲載依頼を行い、保護者PTAにも実施の呼びかけを展開している。

しあわせ守り隊との連携は、10月に意見交換会を実施し、学校前のラウンドアバウト交差点において看板設置作業を事務局とともに行った。

家庭教育支援事業との連携は、2月8日、親学習として石川千明さんを講師に招いて「スマホモラル学習」のオンライン研修会を実施した。

広報誌は3回発行した。（8月、1月、4月発行予定）

8月号は、地域学校協働活動の紹介、授業での支援、授業外での実績の報告、本事業の紹介、新しいメンバー紹介、8月以降12月までの学校行事予定を掲載。

（【資料3】能勢ささゆり学園コミュニティ・スクールだより」（令和2年8月発行）

1月号は、能勢町地域学校協働本部の設置、部会活動、主な活動団体などについて記載。

1月から3月までの学校行事予定を掲載。

（上記【資料1】参照）

令和3年4月発行予定の紙面は、本年度の活動内容及び研修会の内容、本部員、学校教員の声などを掲載予定。

なお「行事・環境部」では、「ボランティア募集」チラシを作成し、今後、共に活動できるボランティアに声掛けをしている。学びの丘の開放、地域教育協議会等とのコラボイベントの調整、ボランティアのつどいの開催は、新型コロナ感染防止対策のため中止した。

（【資料4】ささゆり学園ボランティア募集 チラシ）

④ 推進員によるジャンピングボードの作製・体育倉庫清掃作業

11月11日、推進員協議会のメンバーの協力により、小学校で使用するジャンピングボード3台の作製と体育倉庫清掃作業を行った。

ジャンピングボードの作製に当たっては、委員が材料の一部を地域の方から調達し、また自前の道具を用い作業した。

それと並行して体育倉庫内のテントを学びの丘倉庫へ運び、使い勝手が良いように整理整頓していただいた。推進員自らが「まずは自ら汗をかいて活動しよう！」という声掛けで学校施設環境整備と新たな教具が創出され、児童生徒のみならず教職員が日々気持ちよく体力づくりの実践が行える環境が整えられた。

(上記【資料1】参照)

⑤ 推進員による漢字検定の監督員

能勢町では平成23年度から全児童の全額補助による漢字検定を9年間実施している。令和2年度より対象を限定し、学校教職員ではなく地域学校協働活動推進員と事務局を中心に実施主体を変更し行った。1月28日、対象は主に2年生から4年生で、10級から6級に約140人が各クラスに分かれてチャレンジした。ここ数年、本番に向けて、放課後に開かれるアフタースクールⅠにおいて、「漢字チャレンジ」テスト(模擬試験)を実施し、今年度もコロナ禍において、地域のボランティアの皆さんの協力により実施できた。

これまで小学校全学年で実施していた業務が地域を主体に展開することで、教職員の業務改善につながり、地域からも監督員を務めていただくことで、地域学校協働活動が円滑に進めていくことができた。今後は、更に監督員に協力していただく委員を増やして実施していきたい。

⑥ 豊中高校能勢分校の下宿制度立ち上げ及び府内中学生の入学者拡大に向けての取組

町内児童生徒数減少に拍車がかかり、定員割れの状況が続く中、この現況を打破するために、令和3年度から大阪府全域からプチ里山留学ができるように「高校生の下宿制度」を立ち上げた。町内自治会を通じて受入可能かどうかのアンケート調査を実施し、受入家庭の確保、府内中学校への情報提供下宿説明会の開催、下宿生と受入希望家庭のマッチングなど現在進行中。

令和2年度では町外からの入学者が1名であったのが、11名の受験者が集まった。大阪府内から能勢のプチ里山留学を求めている生徒・保護者のニーズが確認できた。

(【資料5】大阪府内中学生対象 プチ里山留学しませんか? (令和2年10月発行))

⑦ 中高連携土曜授業の学年枠及び地域枠拡大

これまで土曜授業は能勢豊能の3校の中学校3年生に限定していたが、令和2年度より1年生から3年生までの3学年に枠を拡大。高校教員の特技を生かしておもしろ授業、部活体験等メニューも変更。町教育委員会が山下駅から能勢分校までの送迎バスを運行。池田市校長会及び教育委員会へも働きかけ、池田市の全中学生にもピラを配布。7回の講座のうち、最大27名が参加するほど、大盛況だった。おかげで、池田市内からの志願者が増えて、昨年町外志願者1名から11名となるなど、下宿制度と合わせて能勢分校の大きなPRとなった。

(【資料6】令和2年度 豊中高等学校能勢分校 土曜講習 受講者募集チラシ (令和2年10月発行))

⑧ 町行政が主催する「高校生と考える これからの社会像」連続公開講座 4回

能勢町総務課政策推進係企画「高校生と考える これからの社会像」の連続講座は、高校生と町民がまちの未来を共に考えていく授業の一環。令和元年の秋、能勢町長をはじめ町職員・高校生・教員がドイツ・ブリロン市へ視察研修に行き、地域エネルギーの賢い利用について環境先進国のドイツから学び、地元能勢町で何ができるかについて高校生が町と共に「これからのエネルギー」について考える大きなきっかけとなった。能勢町で進めてきた地域エネルギー会社の設立と高校連携の2年間の歩みをベースにして、能勢分校生がまちの未来を考える熱い思いと、能勢町行政が高校生にまちの未来を託していく温かい気持ちとが刺激し合って、相乗効果が生まれている。

(【資料7】「高校生と考える これからの社会像」(令和2年12月~令和3年2月))

⑨ 第18回小中高一貫教育研究発表会 公開授業及びオンライン授業公開

小中高一貫教育研究において、9つのテーマ別グループ(健康と運動、食と農業、言語活動、グローバル英語、自主活動、情報とICT、グローバル能勢、支援、環境)の取組を更に深めてきた。11月10日の小中高一貫教育研究発表会では、人数制限を行った公開授業とリモートのオンライン授業を配信するなど、工夫した研究会を実施。言語活動グループでは中学3年生と小学5年生を対象にした「書くこと」のコラボ授業。グローバル英語グループでは小学2年生、中学1年生、高校2年生を対象にした「日本の行事や文化を英語で紹介するコラボ授業。そして、環境グループでは、中学2年生と高校1年生を対象にした家庭科のコラボ授業。能勢町の地域課題を解決するための環境に関わる課題について考え合う内容。中高連携の授業公開を実施。

(【資料冊子①】第18回小中高一貫教育・連携型小中高一貫教育研究発表会「学びの軌跡」(令和2年12月発行))

⑩ 標本活用等事業で創設した学校博物館の活用

学校博物館を身近に感じ、日頃の理科、生活科、総合的な学習の授業で活用していくために設置した「私の発見コーナー」では、動物のくちばし調べ、校内で捕獲したマムシの標本、身近な草花、能勢の自然の魅力など児童生徒の作品や自主学習などをコルクボードに掲示できた。また、学校博物館のPR動画の作成が3月末に完成する。学校博物館を利用する児童生徒や地域住民に標本や展示物、展示棚等、製作者の意図が伝わるように学校や町のHPに掲載していく予定である。7月20日には、大阪自然史博物館の学芸員を招き、4年生を対象に「能勢の自然の魅力を再発見しよう」という授業を企画し、学校博物館課題解決学習の企画も行っていく。

（【資料8】ふるさと科「グローバル能勢」学校博物館創設 旧学校備品活用（令和3年2月発行）

⑪ ふるさと科「グローバル能勢」教員研修会の継続実施

能勢の自然、環境、動植物、歴史、文化などの材を扱いカリキュラム・マネジメントしながら児童生徒が地域の魅力を発見できるように、5年前の開校時から学期末に「グローバル能勢研修会」を開催してきた。令和2年度末で15回目の開催となる。学校と地域との関係、バランスが変わってくる中で、地元能勢を題材にできる授業づくりは、地域学校協働活動の根本となる。能勢の素材が生かせ、持続可能なまちの創り手が育成できるように、小学校教員から中学校教員へも拡大していけるように今後の取組に期待したい。

⑫ 能勢版寺子屋「英会話講座」の実施

能勢の寺子屋委員会（仮称）能勢の高校を応援する会を中心に、能勢高校留学生サポート委員会、能勢の魅力化リターンズが、昨年未来フォーラムというイベントを企画。月1回第3金曜日の午後7時30分から活動を継続してきた。この3つの組織を中心に、豊中高校能勢分校の活性化に向けた取組を行っている。1つは、豊中高校能勢分校の短期長期の留学生ホームステイに係る組織母体を作る。また、能勢の魅力化リターンズが月1回行ってきた熟議。月1回の熟議には、能勢の高校を応援する会のメンバー以外にも多くの方が参加し、熟議を重ね、能勢版寺子屋を立ち上げた。

今年は、11月12日（木）、19日（木）、26日（木）高校のALT教員を講師に「英会話講座」を実施。分校生、卒業生、応援する会、一般の方、中学生と様々な立場の人々が集まって和気あいあいとした講座を開催できた。

【資料9】NOSE TIMES Special 大阪府立豊中高校能勢分校 冬号（令和2年12月発行）

⑬ 大阪経済大学との連携 体力づくり推進事業

昨年度末に大阪経済大学と連携し「オノマトペ体操2020年度版」を作成し、学校が休校となっている4/16（木）能勢町HPに掲載した。さらに、5月初旬には体操に関するチラシを作成し、町内幼保小中へ配布した。

この体操が大阪経済大学のHPや新聞（大阪日日新聞・朝日小学生新聞等）で紹介されたこともあり、静岡県や府内から多数の問い合わせがあった。

学校再開後には、7/27（月）三測定会（6年生）を実施し、ペダリング・ジャンプ・立幅を測定するとともに『かけっこ教室①』を実施した。9/28（月）には『かけっこ教室②』（2年・3年・6年・クラブ活動）、11/9（月）『かけっこ教室③』（2年・3年・4年・5年）を実施し、運動会やマラソン大会に向けて意欲と技術の向上を図った。

また来年度に向けて、2/1（月）に大阪経済大学の若吉教授と打ち合わせを行い、水泳指導における「スイムバランス」の活用や、「能勢っ子！かけっこ！日本一！」プロジェクトについて意見交換を行った。

3/1（月）には『大阪経済大学×能勢町 「能勢っ子！かけっこ！日本一！」の取組に関する成果（卒業論文）報告会』を実施し、2年間の取組を振り返り、次年度に向けての課題を明確にするための機会を持った。

【資料10】朝日小学生新聞（令和2年5月20日発行）

7. 実証研究のスケジュール

(当初予定 見え消しは新型コロナウイルス感染症対策により中止)

業務項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校運営協議会(小中)	会議1	会議2	居場所づくり参画			会議3	会議4	居場所づくり参画		会議5		
	行事1	研修1	視察研修1			視察研修2	行事2	視察研修3・4				
地域学校協働本部	会議1	会議2	居場所づくり参画			会議3	会議4	居場所づくり参画		会議5		
	研修会											
学校運営協議会(高校)	会議1			会議2			会議3					
	※随時、双方の学校運営協議会と連携協働し、熟議・行事に参画を求め活用する。											
(仮称) 能勢の寺子屋実行委員会	会議 \longrightarrow 不定期に年間10日ほど行う予定											
	第3回未来フォーラム			能勢寺子屋へ								
	留学生サポート会議			適宜								
体力づくり連絡会	会議1	動画作成・町HPアップ	水泳指導	会議2	行事1	***サマニモ***		会議3				
	50m・シャトルラン計測 ※大学と能勢町の包括協定(予定)											
	オノマトベ体操継続 \longrightarrow											
小中高一貫教育研究	総会			研究発表会								
	テーマ別G会議1	会議2	会議3			会議4						
	新NS能勢スペシャル授業 \rightarrow			連携授業1		連携授業2						
	※毎月の小中高校長会 隔月の事務局(3校教頭、首席、加配、指導主事)の継続											

(変更の実施内容)

業務項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校運営協議会(小中)			会議1	会議2								会議3
地域学校協働本部			会議1	会議2							会議3	会議4
学校運営協議会(高校)			会議1				会議2					会議3
能勢版寺子屋		会議	→						不定期に年間10日ほど行う予定			
			第3回未来フォーラム						能勢寺子屋「英会話講座」(3回)			
			留学生サポート会議	適宜					マレーシア留学生受入(R4.7月まで)			
体力づくり連絡会		会議1	動画作成・町HPアップ				会議2			卒業論文提案会		
			50m・シャトルラン計測				※大学と能勢町の包括協定(予定)					→
小中高一貫教育研究			テーマ別G会議1	会議2			会議3			研究発表会		会議4
			新NS能勢スペシャル授業	→			連携授業1			連携授業2		
			※毎月の小中高校長会 隔月の事務局(3校教頭、首席、加配、指導主事)の継続									
グローバル能勢教員研修会実施									研修会1(13回目)	研修会2(14回目)	研修会3(15回目)	
			※能勢小学校で「ふるさと学習」(グローバル能勢)実践交流会を開校時から学期末に実施し、令和2年度末で15回目を迎える。1年担任から6年担任から生活科・理科・社会科・総合的な学習の時間									